



誕生～1歳まで

生後約2か月までは母犬のもとで過ごし、その後はボランティアの家庭へ。家族の愛情に包まれて育ち、人間社会で暮らすルールを学びます。



盲導犬としての訓練

1歳になると訓練所に戻り、盲導犬の訓練をスタート。基本の指示や街中での動き方を学び、何回かのテストを受けます。



盲導犬デビュー

盲導犬を使う人との共同訓練を経て、いよいよデビュー。定期的に訓練士が歩行の確認をします。



引退

10歳前後で引退し、飼育ボランティアなどに引き取られます。引退後は普通のペットと同じようにのんびりと過ごします。



ミニコラム② 盲導犬と関わる3つの方法

盲導犬や盲導犬ユーザーを応援する方法はさまざま。できることから始めてみませんか？

① 正しく知る

盲導犬や視覚障がいについてまずは正しく知りましょう。

② 寄付をする

関連団体に寄付をするのも方法です。

③ 子犬や引退犬などの面倒をみる

育成団体にボランティアを募集している場合もあります。

日立システムズの取り組み

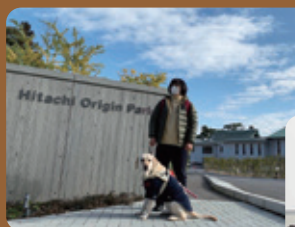
誰もが活躍できる 職場へ、そして社会へ。

日立システムズは、障がいのある従業員にとっても働きやすい会社をめざしています。



盲導犬ユーザーの従業員の協力で、盲導犬理解促進セミナーを開催。募金箱※の設置も

※(公財)日本盲導犬協会に寄付しています。



ときには社外で、チャリティイベントなどに協力



表紙のイラストは、当社で働く盲導犬ユーザーをサポートする盲導犬を、同じオフィスで働く従業員が描きました。



株式会社 日立システムズ

〒141-8672 東京都品川区大崎1-2-1
Tel. 03-5435-7777

www.hitachi-systems.com

※掲載の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。
※掲載の写真はイメージです。
※このリーフレットは(公財)日本盲導犬協会の監修のもと、制作しました。

HC-002-1.2

HITACHI



会社 に 盲導犬が来た



株式会社 日立システムズ

盲導犬って、何だろう？

目の見えない人、見えにくい人を助けるパートナーです。

私たちが暮らす街の中には、障害物や段差などの危険がたくさんあります。しかし、目の見えない人、見えにくい人は、これらに十分注意することが困難。そこで、盲導犬がサポートします。



段差を教える 段差の手前で立ち止まって知らせます。指示があるまでは動きません。

盲導犬ユーザーは、目的地までの道順をあらかじめ調べ、頭の中に地図を描いています。この「メンタルマップ」と盲導犬の動きを重ね合わせて、現在地を知るのです。

ミニコラム① 知っていますか？「補助犬」のこと

盲導犬のほか、手足が不自由な人を助ける介助犬、耳の不自由な人を助ける聴導犬を、まとめて「補助犬」と言います。右の「ほじょ犬」マークは、その施設が、補助犬を快く受け入れるという印です。

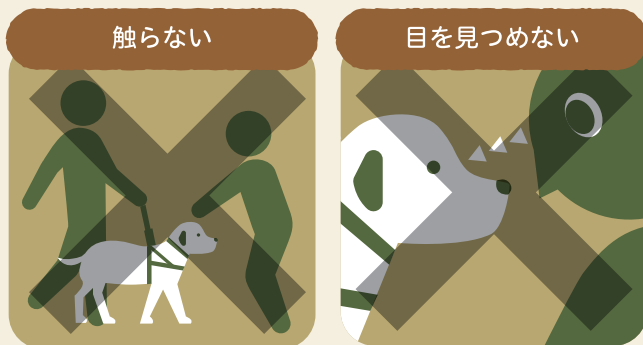


お店や会社ではどうしたらいいの？

企業や公共施設での受け入れが、法律で定められています。

盲導犬（補助犬）と共に行動することは盲導犬ユーザーの生活の一部。「犬だから」と施設に入れなくては困ってしまいます。そこで2002年に「身体障害者補助犬法」が生まれ、2008年までに、病院やお店、また企業でも、補助犬の受け入れが義務となりました。

正しい接し方を知ってください。



盲導犬ユーザーに声をかける



見かけた時はどうすればいい？

もし困っているようであれば盲導犬に話しかけるのではなく盲導犬ユーザーに「何かお困りですか？」と声をかけることが大切です。

Q&A

職場での盲導犬受け入れについて

特別な準備はいりません。

盲導犬は職場ではどのように過ごしているの？

普段は待機場所で寝ています。

盲導犬は「待つ」ことも得意。当社では、空いているデスクの下など、盲導犬ユーザーが管理できる場所でリラックしています。

トイレはどうするの？

決まった時間に指定の場所へ。

盲導犬ユーザーが、犬にガマンさせないように、決まった時間に排せつに連れていきます。お互いに気持ちよく過ごせるよう、においなどに気をつけています。

職場で準備することは？

特にありません。

盲導犬ユーザーから相談があったら、できる限り協力してください。

もっと詳しい情報はこちら ▶▶▶▶▶

